



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報

NO-140 2022.10.3

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp

連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

「生と死」

鹿児島県護憲平和フォーラム

古殿 義輝



国葬やりましたね、うへん。安倍さん亡くなつてから、ずっと政治利用され限りされて、もう故人の尊厳なんつああ、どこよ？心から哀悼の意を表すなんて嘘だよ。死した人の威を借りて、姑息に生き残りを賭けた連中の愚行。ちょっと、待ってさ・・国民の負託を受けた者たるや、その立場に驕ることなく威張ることなく謙虚に、その人生の歩みを背中で魅せることこそ、求められる姿ではないか？ある人は言つたらしいね「理屈じやねえんだよ」って。屁理屈野郎が風上にも置けんね。○○がっ！！（○○には、あなたがお好きな言葉を入れて、声に出て読んでください）

えっと、話は変わり、私、8月中旬からコロナに感染してですね。基礎疾患持ちのアレルギー体質で、ワクチン未接種。報道によくある「基礎疾患持ち→自宅療養中に容体急変→死亡」が頭から離れず。よつて再三に渡るホテル療養要請も、私の後に感染させてしまった妻の容体が心配でならなかつたことと、大袈裟ではなく「死」への恐怖がある精神状態では閉塞感が生まれるであろうホテル療養は出来ないと自宅療養を選択。自宅療養中の不思議な体験。胸の痛みが激しく、全くと言っていいほど

眠れない日々が続く中、やつと眠れた矢先、突然、目の前が真っ暗な渦に囲まれ、渦の真ん中にある光の点がものすごいスピードで小さくなつていき、その光に懸命に手を伸ばしている自分の姿を、黙つて俯瞰している自分がいたというもの。別室にいた妻が、何か異変を感じたのか、大丈夫？！大丈夫？！と何回も声をかけてくれたそう。繰り返される呼びかけの中、突然起き上がり、汗びっしょりで、息を切らして手を懸命に伸ばしながら部屋の中を走り回ったそうだ。そして、我に返ったと。その記憶はない。この体験は、その時の自分が見た、いわゆる三途の川だったのかなと。まさに、土壇場で生還したというのが実感。皆さんには感染してほしくない。今は無症状が多いけれど、実はね、感染することで「死」とは隣り合わせ。明日は我が身と、そう心して、余念なく感染対策を取ってくださいね。何か異変を感じたら迷わずPCR検査、それが周りの命を守ることになるの。貴方と貴方の大切な人、周りを守れるのは、貴方だけだから。後悔先に立たず。これはマジだからな！マジ！今こうして、生かされたことに感謝しながら、これから的人生を歩んでいきたい。

「国葬」反対抗議スタンディング行動

北薩ブロック平和運動センター

出水市役所前（9/10）・阿久根駅前（9/17）・長島町役場前（9/24）で、3週連続アピール行動を実施しました。

多くの国民の反対の声が高まる中で、憲法違反の安倍元首相の「国葬」を何が何でも強行しようとする岸田政権への怒りに燃えて、出水地区内3箇所において社民党出水総支部が主催する抗議スタンディング行動に北薩ブロック平和運動センターも共闘して参加し、市民のみなさんに反対の声を届けました。安倍在任中の8年8ヶ月にわたって自民党政権が行ってきた、集団的自衛権行使を合憲化する「戦争法」今日版の治安維持法といわれる「秘密保護法」や「共謀罪」の強行を許すわけにいきません。「アベノミクス」によって労働者は貧窮にたたき込まれ、福島第一原発事故の被害に苦しむ方々を、実質的に切り捨ててきました。また、「森友・加計問題」や「桜を見る会」に関わる不正支出問題や国の根幹にかかる公文書偽造の解明は、いまだに闇の中です。このように、改憲・軍事強国に向けて突き進むための数々の悪法を強行してきた安倍首相をリーダーとする自民党政権でした。その国家的セレモニーとして「国葬」を、国民の6割以上の反対の声を踏みにじって実施しようとする岸田政権に、怒りを込めて3週連続のスタンディング行動に参加しました。

9月10日に行われた、県護憲フォーラムの行動と同時刻に出水市役所前通り（21人）のスタンディング行動を皮切りに、翌週17日には阿久根駅前（14人）で、そして24日には長島町役場前（17人）にて、抗議のスタンディングは、初めての3週連続の行動でした。いずれの場所も人通りは、ありませんでしたが、車の行き来は多く「車窓から手を振る人」「会釈する人」信号待ちの車内から「がんばれ！」と声をかけてくれる人、過去のとりくみでは、こんなに反応があったことがなかったので、参加者はみんな元気をもらうことでした



9/10 出水市役所前

9/17 阿久根駅前

9/24 長島町役場前

中央「フォーラム平和・人権・環境」代表者会と

奄美のフィールドワークの報告

代表 下馬場 学

<代表者会議>

9月14・15日の両日、中央の「フォーラム平和・人権・環境」責任者会議が鹿児島市内で開催されました。中央フォーラムの経過報告と共に今後の闘いの確認のため各県の代表者が集う会議を、鹿児島の地で開催した理由は、鹿屋の米軍無人偵察機部隊配備、馬毛島のF C L P基地建設、奄美のミサイル基地建設及び弾薬庫建設など、日本の軍事基地化の最前線に鹿児島が置かれているからです。

会議では、前回の代表者会議からの経過報告、質疑応答のあと、喫緊の課題「改憲発議」「軍備増強」を許さないとりくみと当面の闘いの方針に加え、各地の闘いの現状の報告・共有がなされました。執行部から、2021年衆議選・2022年参議選の結果をうけ「憲法改悪」に向けた策動の状況を提起・確認し、憲法審査会の暴走・軍事費拡大を許さない各都道府県でのとりくみへを提起。軍事基地化が強化されている日本列島・辺野古基地建設に象徴される南西諸島、核兵器禁止条約会議、N P Tの現状、東アジアの非核・平和のとりくみ。入管法や朝鮮学校に対する差別・部落差別などの人権課題。原発をめぐる状況などフォーラム課題の現状と今後の闘いが提案されました。

各県からの報告では、千葉・木更津のオススプレイの状況、沖縄からは知事選での玉城デニー知事の再選とペロシ米下院議長の訪台を理由にした中国の軍事訓練のミサイルが与那国島の目の前に落下している実態を、新潟からは柏崎原発の実態と佐渡金山の世界遺産登録課題の報告、全日建からは「関西生コン事件」の状況、移住連からは入管法改悪とウクライナに就いての報告がありました。

最後に、勝島・藤本両共同代表がまとめで、1日目を終了しました。2日目は『南西諸島の軍備強化の現状について』と題して、吉井千周都城高専准教授の講演、それに基づく質疑がなされました。講演の中で吉井さんは、まず衆参選挙を受けての茂木自民党幹事長の「4項目にこだわらない」発言を取り上げ、2012年発表の自民党草案による改憲を諦めていないことを指摘。馬毛島をはじめとする南西諸島の軍備強化については、日米両軍が島嶼戦争の初期においては、米軍は第二列島線まで下がり島嶼防衛は自衛隊が担うこと・ミサイル攻撃の終了後に米軍が島嶼奪還作戦を添加するというシナリオを共有していることからも『捨て石』としての琉球弧であると断言し、自国の安全保障強化が他国の軍事強化につながる「安全保障のジレンマ」も指摘しました。



また、中央アジアからアフリカ・ヨーロッパだけでなく南太平洋から南アメリカ・北極を通ってヨーロッパという米国包囲の中国の一帯一路についての解説がありました。

わが国の人口減・高齢化の中で、自民党改憲案の「国防軍」に誰が志望するのか。非武装中立が現実的であることや、わたしたちのフォーラムの運動においても「雇用・賃金など平和の状況にない若者に『今の平和を守ろう』と訴えても響かない。日常の中で『平和』をどう実現していくのか?若者にも伝わる言葉で」と提案されました。

(吉井千周さんは本県護憲平和フォーラムの集会でも講演していただきました。10月からは富山大学へ転出されること。ご活躍をお祈りします。)

<フィールドワーク>

2日目午後からは、馬毛島・奄美の鹿児島の軍備強化の実態を視察するフィールドワークが計画されていましたが、馬毛島上陸は台風接近により中止となり、奄美のミサイル基地視察のみが行われました。奄美空港では、奄美平和運動センターの関誠之奄美市議が待ち受けていただき、2日間奄美の軍事化の実態・歴史・文化について説明・案内をしていただきました。(準備していただいた城村事務局長は、体調不良のため欠席)



奄美駐屯地・中距離地対空誘導ミサイル

奄美大島には、奄美駐屯地に警備部隊230人、中距離地対空誘導ミサイル(中SAM)運用部隊60人併せて約350人。瀬戸内分屯地には警備部隊130人、地対艦誘導ミサイル(SSM)運用部隊60人併せて約210人が常駐しています。2019年3月に開設され、同年9月には、早速、日米共同訓練「オリエントシールド2019」が展開され、今年度もわたしたちの中止要求を無視し強行されました。

(各ブロックでの抗議行動のようすは、フォーラムニースで報告済み)

事前に奄美平和運動センターの視察申し入れによって、駐屯地・分屯地内に入り隊員の丁寧な説明を受け、奄美の軍事的重要性を聞かされました。移動の車中での関さんの「先の大戦時にも奄美は重要視され、各所に軍事施設が建設された」との説明と重なり、同時に40数年前「北方4島でのソ連軍の基地建設に対抗して北海道の軍事強化」なされたことを思い出しました。基地内を移動しながら駐屯地内の設備や装備の説明を受けました。

昨年度配備の電子部隊や今年完成の室内射撃場など、具体的な説明に対して「ミサイルの飛距離は?」の質問に「答えられません!」と、明瞭に答える隊員に有事を想定している現実が見えました。しかし、戦争の長期化を前提とした瀬戸内分屯地の弾薬貯蔵庫建設や島内・市街地での銃撃戦を想定した射撃訓練場などを見学している途中で、案内していただいた関奄美市議は、市議会で「島内が戦場になったとき、島民の安全・命の保証はできるのか?」との質問に、「まともに答弁できないのが現実です」と話しました。駐屯地分屯地の実情を観るとき、改めて「絶対に、戦争はいけない」「外交・交流による国際関係の樹立」を痛感したフィールドワークでした。

今回の会議や視察の準備をしていただいた皆さんをはじめ参加された方々に、心から感謝を申し上げます。

安倍元首相の「国葬」強行実施を許さない！



国民の過半数が反対し、その数が日々増す中で、法的根拠も無く、国会での説明も不十分なまま、岸田内閣は9月27日「国葬」を強行実施しました。

県護憲平和フォーラムは、午後1時半から「天文館センテラス」前の両歩道で『安倍元首相の「国葬」強行実施を許さない』スタンディング抗議行動を実施しました。ウイークデーの昼間にも関わらず、70名を超える皆さんに集まっていただき、手製のプラカードによるアピールやリレートークで人々に「国葬の問題点」を訴えました。国葬開催の午後2時には、シュプレヒコールで「国葬強行実施を許さないぞ」と訴えました。これからも、自民党と旧統一教会との深い癒着の構造、国葬実施の問題点などを追及して行くこととします。



姶良伊佐ブロック平和運動センターの報告

姶良伊佐ブロック事務局長 前田 祐太

【地域・構成組織】

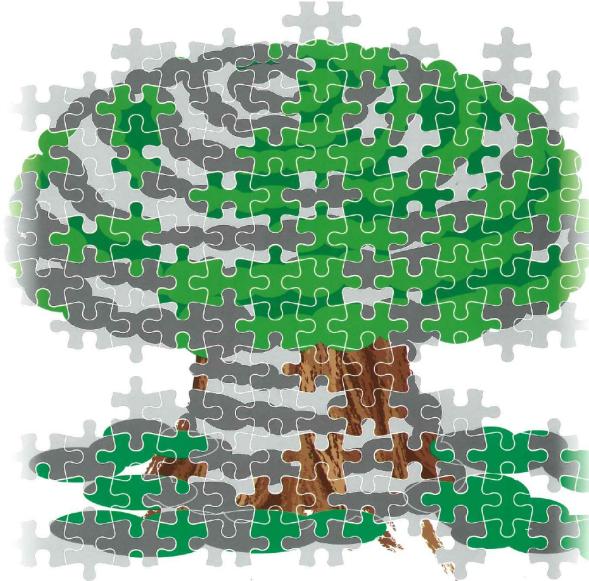
姶良伊佐ブロック平和運動センターは、霧島市・姶良市・伊佐市・湧水町の3市1町で各種活動に取り組んでおります。霧島市職労・姶良市職労・伊佐市職労・湧水町職労・鹿教組・高教組・南国交通労組・私鉄鹿児島交通労組・労働金庫労組・岩掃労組・国労の11単組で構成されております。

【主な活動内容】

姶良伊佐ブロック平和運動センターでは、年1回の定期総会と定期的な代表者会及び幹事会を実施し、各種活動に対する計画を話し合い、取り組みを行っておりまます。しかしながら、新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、役員会も実施できず、各種活動も中止せざるを得ない状況となることが多くなりました。その後、社会情勢もwithコロナへと変わる中で、私どもブロック平和運動センターにおいても十分な感染対策、規模の縮小等を行いながら少しづつではありますが、以前のような活動が出来る状況になりつつあります。今後も工夫を凝らしながら各種活動を展開していきます。

また、姶良伊佐ブロック平和運動センターでは「原爆と人間」展の実行委員会の一員として活動もしております。本年度も8月6日(土)に姶良市立中央図書館で開催しました「原爆と人間」展に向けての実行員会や準備・片付け、当日の役員など協力をさせていただきました。当日は、加治木空襲を経験された有馬さんが自ら描いた戦争画などを使い、空襲の様子や戦時中の生活を紹介していただき、来場者が熱心に聞き入る姿がありました。皆様も来年度は来場してみませんか?

第21回 「原爆と人間」展



日 時：8月6日(金)～8日(日) 10時～16時
場 所：姶良市立中央図書館
主 催：県原爆被爆者協議会・姶良地区「原爆と人間」展実行委員会
共 催：姶良地区教職員共助会
後 援：姶良市・姶良市教育委員会

「馬毛島」軍事基地化を許さない!

熊毛ブロック護憲平和フォーラム

代表 大石 正博

熊毛ブロック護憲平和フォーラムはこれまで「馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会」や「鹿児島県護憲平和フォーラム」「鹿児島に米軍はいらない県民の会」など、県内の軍事基地化反対組織・団体と連帯し、情報を共有し、署名・学習会・集会・デモ行進・街宣・街頭などに積極的にとりくんできました。

署名活動はこれまでに「329,473筆」を、超えました。これに合わせて自衛隊「馬毛島」基地建設反対の地元活動や馬毛島基地建設化による問題点などを、全国に発信してきました。

地元西之表市民の中には、基地建設についてはっきりと賛否を表明している方もいますが、一方で「判断できない」とする市民もいます。この判断できない方々に対しては、対話活動を通して情報提供を行い、反対活動の拡大と強化の継続したとりくみが必要です。また、定期的な街頭・スタンディング・街宣活動での「目」と「耳」に届ける活動も必要です。

防衛省は「住民に丁寧な説明を行い、理解を得る」という言葉を何度も繰り返し使っていますが、西之表市民が理解し、納得する回答はいまだに得られていません。それどころか、八板市長や塩田知事が基地建設への賛否を明言していないにも関わらず、さらに、地元の同意が得られていない状況の中で、巨大軍事基地事業の既成事実化を強引に強行してきています。私たちは、この動きに対して、八板市長や塩田知事に「基地建設を許可しないよう」何回も繰り返し要請を行いながら、地元では集会やデモ行進を行いながら広く市民に情宣し、反対運動への参加を呼びかけました。

防衛省の既成事実化が進む中、2022年2月3日の防衛大臣への申入れでの「特段の配慮」問題以降、八板市長から「失うものが多く、同意できない」との反対の言葉が聞かれなくなりました。しかし、市長は、反対の立場で二期目の市長選挙に臨み、当選したのです。基地建設反対は、公約です。それを言わなくなつてから「既成事実化」に、拍車がかかったように思えます。地元では、何度も市長と直接面会し、考えを糾しましたが明確な回答は得られませんでしたが「防衛省が整備地に決定したことで、新たな局面に入ったので、現実的な対応をしなければなりません」「行政はしばしも滞ることは許されません」「しかるべき時期に、改めて、市長として責任ある考え方を示します」と回答しました。



私たちは、西之表市と防衛省との協議が進むことは、この協議の場が防衛省にとって自衛隊馬毛島基地建設計画の推進にほかならないと考え、両者の協議が行われるたびに、抗議の集会やスタンディング行動を重ねてきました

防衛省は、2022年度内に環境アセス準備書の最終段階の「評価書」の提出を終了し、本体工事まで進める意向を示しています。

市長、知事、大臣が基地建設に同意しないように、要請行動を強化していかなければなりません。

地元では、基地建設により生じる生活環境・自然環境破壊などの様々な影響を広く県民や全国に情宣し、反対運動の広がりを求めていかなければなりません。

9月18日（日）に開催予定の

「9.18不戦を誓う日の集会」は台風接近の為中止としました。

鹿児島県護憲平和フォーラム事務局

「馬毛島」環境アセスに問題あり **10.7**

「正常なアセスを!」知事要請集会

日時 2022年10月7日(金)

15時30分～16時10分

場所 県庁前歩道



主催:鹿児島に米軍はいらない県民の会